

氏名	森本 一彦
職位	COE 特定准教授
研究概要	
<p>GCOE でリーディングスの編集を担当した他に、主として 3 つのテーマについて研究を行っている。方法としては聞き取りを中心とするフィールドワークを行うとともに、地域に残された古文書などの歴史的資料を分析している。<u>第 1</u> に、家を中心とした伝統的家族に関して、山国荘（京都市右京区）の宗門改帳の分析から、近世において京都への人口流出の中で人口減少への対策として、村が家株を保持する戦略をとっていたことを確認した。<u>第 2</u> に、伝統的地域の社会構造と活性化について、東近江市（滋賀県）、飯田市（長野県）、高野町（和歌山県）の民俗調査を行い、それぞれの地域の社会関係を調査した。東近江市ではトナリシンセキと呼ばれる近隣組織と連中と呼ばれる年齢組織が大きな役割を果たしていた。それに対して、飯田市では本分家関係や親分子分関係が大きな役割を果たしていた。高野町においては、高齢化と人口減少の中で社会組織が縮小していき、10 軒以下の集落において結束力を維持しながら地域社会の中で生き続けていくことを模索していた。これらの地域の差異や人口規模の問題に注目しながら、地縁性について再評価する視点を提示することをめざした。<u>第 3</u> に、北海道移住村と母村との交流について研究を行った。北海道の移住村である新十津川町と母村である十津川村との交流に注目し、母村意識のあり方がどのように形成され、維持されているのかについて検討した。</p>	
教育概要	
<p>社会学特殊講義（社会調査士 F 科目）を担当して指導にあたった。授業は、質的調査法について大学周辺の地域を対象としてミニ・フィールドワークを体験してもらった。その中で、各自の問題意識を持って、テーマを設定してプレゼンテーションを行うとともに、レポートにまとめた。授業以外でも、リーディングの編集を進める中で、希望者を募り、勉強会を行った。勉強会では、それぞれが担当論文を報告し、それに対して検討をする形式であった。最終的には、担当論文と関連する論文について解題を書くことを目指した。その他、研究会の運営など教育活動の補助を行った。</p>	
業績リスト	
<p>【編書論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「村による家の存続戦略—黒田地区の宗門人別改帳を中心として」（単）坂田聡編『禁裏領山国荘』高志書院、2009 年 12 月（377-400 頁） <p>【報告書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田市美術博物館柳田国男記念伊那民俗学研究所編『飯田市地域史研究事業・民俗報告書 4 遠山谷北部の民俗』（共著）飯田市美術博物館柳田国男記念伊那民俗学研究所、2009 年 3 月 <p>【口頭報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仏教寺院と家」（単独）Workshop on Comparative Studies of Chinese and Japanese Families（香港大学）、2008 年 9 月 ・‘Family Studies in Japan: Focusing on Ie’（単独）GCOE International Conference “Family and Intimacy in Asia”, 2009 年 11 月 	

